

「金魚の糞」 2013年版 後編

北井 十生 XT2VU, JA3IVU

2月22日(金)朝からHF(14-28)用の三マルチHX52AとHEX BEAM、7MHz用にDP、3.5と1.8MHz用に42mのLWと14、21、28MHz用の三マルチのパーティカルを上げた。

早速、XT2AEF東條さんがHX52Aを使い18MHzでのSSBで電波を発射、続いてXT2VU北井がパーティカルを使い21MHzでPSK31で電波を発射すると直ぐにEUからの猛パイルを受ける。XT2CJA宮川さんがHEX BEAMを使い電波を発射するが14MHz以外のバンドはSWRが高く(3以上)アンテナチューナーを入れての運用となる。

夜間になると7MHzとなるがこれもSWRが高くうまく飛ばないのでHEX BEAMでSWRの低い14MHzを使い運用する。その間、XT2CJA宮川さんが7、3.5、1.8MHzのLow Bandを試している。



(BoboのPoodaさん宅に設置したHX52Aと7MHzダイポール)

2月23日(土)毎土曜日の0時UTC(09時JST)から21.370MHzで行われるJ13ZAGのロールコールをワッチするが入感なし。朝4時ころ起き、まずシャワーをかぶり朝食まで14を運用、午後には21MHz用のデルタループを上げるが耐入力100Wまでなのでリニアが使えない。それでもEUのパイルを受ける。東條さんがSSBで、宮川さんが深夜03時ころからCWで本格的に運用を開始した。

2月24日(日)朝6時XT2VWT中野さんがワガドゥグ空港に夜に到着するので迎えの車がBoboを出発した。HEX BEAMの14MHz以外のバンドのSWRが高いため一度下ろした。点検すると展開するときにアンテナエレメントの位置がずれていたため位置の修正をした結果、全バンドSWRが2以下になった。これでリニアが使用できるようになった。

朝、8時(JST17時)JA IGネット(21.370MHz)に参加したがDLの各局は59で入感するがJAはQSBがあり弱くなると取れない程度まで下がった。コントロールのJA1DKN五十嵐さんのところでは取りづらいようでした。JA3AOF杉山さんはQSBがあるにも関わらず全文了解できましたがJA3AER荒川さんも呼んでおられるようでしたがノイズに隠れて取れませんでした。

去年は14MHzで2時半(UTC)ころ、JA3PYC山本さん、JA3AA島さんともQSOができています。西アフリカXTでの島さんのあの小さな声が今でも思い出されます。その後、東條さんがJAとQSOしている横で聞いているとH3BFO中根さんの声が聞こえたので交代してQSOをした。JA IGネットの後、午前中、28MHzでRTTY運用したがやはりEUのパイルを受ける。

また、XT2FIA浅野さんが持参したリグとアンテナで運用したいとの希望でFT897DMと7MHz用DPを設置することにした。浅野さんは日本国内ではVHFの運用しか経験がなく、リグの設定、電源(DM330V)の200V化、アンテナをみんなで立てた。しかし、アンテナマストがなかったためクランクアップタワーとLW用のマストを利用して地上4m程度の高さであったがなんとか展開することができた。しかし、建物に接近しているため同調周波数がずれてしまい長さを調整してなんとか使用できる程度までSWRを下げた。まずは、SSBで東條さんの運用を横で見学し、しばらくしてマイクを渡したところ戸惑いながらもなんとかパイルをさばっている。夕方から18MHz PSK31で運用。

2月25日(月) 早朝から7MHz、21MHz、午後 18MHzでPSK31、14MHzでRTTYを運用

2月26日(火) 早朝から7MHz、18MHz、21MHzでPSK31を運用

8時ころ(UTC)から18MHzでJA向けにCQを出す。CQ JAでもEUが呼んでくるのでCQ JAonlyとしたところEUから呼んで来なくなった。おかげでJAと20局ほどQSOできた。10時ころワガドゥグで開催される「セミナー」に参加するため、ボボを出発、途中のボロモで昼食、夕方宿泊先のパレスホテルに着いた。

中野さんと再会し、明日の「セミナー」の開始時間が15時からに変わったことと会場がこのホテルであることを聞かされた。(3人もビックリ)「セミナー」が終了次第ボボに戻る予定が狂いさらにワガドゥグでもう泊ることになり、パレスホテルが確保できるかどうかかわからない。フロントで聞いてみると何とか泊まれそうだ。明日の午前中をどうするか相談した結果、XT2TTを訪問することにした。



2013.02.21 22:21
(イタリアチーム XT2TTのみなさんと)

2月27日(水) 予定とおりXT2TTを訪問 島本さんの案内でイタリアチームのXT2TTの運用と設備を見学した。アンテナの建て方がシンプルで感心した。昼はセネガル料理店へ 見て食べた感じはブルキナとあまり変わらない。

15時ころから「セミナー」が始まる。あとで聞いた話だが正式にはブルキナファソ・アマチュア無線連盟(ARBF)主催「国際ワークショップ」という名称であった。このワークショップで中野さん、東條さん及び北井が参加し、それぞれ、中野さんが「アマチュア無線と経済発展(仏語)」、東條さんが「わたくしとアマチュア無線(英語)」及び北井が「日本のアマチュア無線法制度(日本語/仏語訳付)」を紹介した。また、当クラブ会長の島本さんが「地上波デジタルテレビについて(英語)」、XT2TT イタリアDXチーム代表のアルフェオ(Alfeo CAPUTO: I1H JT)さんが「DXペディションと災害通信(英語)」を発表した。

ワークショップ冒頭にBARRO通信大臣が挨拶し、続いて電子通信情報管理局(ARCEP)のBAKO局長がアマチュア無線が災害時の通信として社会に貢献することから、ITUなどによって途上国における利用促進が勧告されていることを紹介した。しかし、市民によるアマチュア無線利用を活性化するためにはライセンス制度、国家試験制度、無線機材の認定制度など、これから着手すべき多くの行政制度整備の課題が残されていると指摘した。

BARRO大臣及びBAKO局長にCRIDRとして準備した日本の扇子、大判の伝統的な京都風呂敷などをお土産としてお渡しした。ワークショップには、災害時に出勤する軍隊関係者、災害時の機材輸入の円滑化を担当する関税局長、その他、ワガドゥグの10校ほどの私立大学から関係者と学生がフロア参加者として参加していた。(この項 中野さんの報告書から拝借)

地元のテレビ局RTBが取材にきており、後日 全国ネットで放送された。ワークショップ終了後、参加していた方々と懇談と記念撮影をした。



(ARBF主催 国際ワークショップ)
左からBAKO局長、BARRO通信大臣、Pooda会長)

島本さんはこの日の深夜にワガドゥグからカサブランカ、ミラ、イスタンブールを経由して大阪に帰国した。

さて、今夜の室はどうなったかとフロントで聞くと1部屋空けてくれとのこと。東條さんと北井が1つの室になった。ただ、この室 ツインではなく大きなシングルの室だ。

さて、夕食を何にするかということになり、ホテルの前からタクシーに乗りレストランへ。この車の燃料はLPGらしく後部のトランクに2つほどのボンベを積んでいる。途中2回ほどエンジンは電源ビニール線をショートさせてスタータを回す。(ああ恐ろしや恐ろしや) なんとかレストランに着き 夕食にありついた。



(ARBF主催 国際ワークショップ「イタリアー」M1HJT CAPUTOさんと学生さんたち)

2月28日(木)朝7時半パレスホテルを出発し 一路ボボへ 13時半ころ ボボに到着した。すでに宮川さんと浅野さんでHEX BEAM、ダイポールアンテナを撤去されておりHX52Aとデルタループが残されていた。HX52Aは撤去せずそのままにしておき、デルタループは明日の朝に撤去することで運用を再開した。東條さんと北井が留守の間、宮川さんと浅野さんの二人で運用したとのこと。中野さんらがある事件のため ボボ市内へ出掛けた。この日の夕食が準備されていなかったので各自が日本から持ち込んだ食料で済ませることとした。



(BoboのPoodaさん宅で今回参加したメンバー)

3月1日(金) 帰国のためボボからワガドゥグへの移動の日だ。

朝から21MH用デルタループを撤去し、その間、東條さんが18MHでJA向けの運用を始め、エリア指定を順にしていく。全てのエリアが終わるまで出発時間を遅らせた。その間に浅野さんがボボの観光に出掛けたがなかなか帰って来ない。10時すぎボボを出発し、途中のボロモで昼食をとり、夕方、ワガドゥグのパレスホテルに到着した。Poodaさんがホテルに来て中野さんと話が始まる。しばらく待っていたがなかなか終わらないのでパレスホテルのレストランで夕食を始めた。食事が終わりかけたころ中野さんがレストランに現れた。

3月2日(土) 帰国の日だが、23時30分の出発なので朝から昨年お世話になった情報処理 経営大学(CEFIG)を訪問した。PENDA校長先生にお会いし、校内でアマチュア無線局を運用することを快諾をいただいた。短時間の運用となるため設置が容易な21MH用デルタループを屋上に上げ、昨年と同じ室をお借りして運用を開始した。まず今回、ほとんど運用されていないXT2VW T中野さん、そしてXT2CJA宮川さん、XT2IVU北井が運用した。昼食の時間となったので中野さん、宮川さん、浅野さんと北井が出掛けた。XT2AEF東條さんは残って運用するという。残念ながらこの日は北米コンテストが開催されており、参加局以外の出現は少なかったとのことでした。

そしていよいよ帰国となり、ワガドゥグ空港へ向かう。まずチェックイン。時間が早かったので空いていたが手続きに手間取り、出国審査窓口には大勢の人が並んでいる。そうしていると館内放送で私たちを呼び出している。X線検査のところは何事かと行く。スーツケースを空けるといふ。中には無線機等が入っていたがXTのライセンスと仏語にした今回の訪問の目的を見せると通してくれた。次は手荷物検査だ。こちらにも無線機等が入っているのでこれをスーツケースに入れろと言っている。



CEFIGで運用するXT2VWT中野さん)



情報処理 経営大学 (CEFIG) PENDA校長と)

スーツケースはもう検査を済ませ飛行機に乗せている。今さらそんなことを言われても困る。ここでもXTのライセンスと仏語にした今回の訪問の目的を見せると通してくれた。おかげで一番早くチェックインしたのに搭乗したのは最後の方だった。

手荷物をバゲッジに入れようとしても最後に搭乗したので空いていない。なんとか空きスペースを見つけ、ちょっと重いカバンを入れた。座席に座りしばらくすると動き出した。(やれやれ) 眠い目をこすりながら機内食を食べた。(2時30分の出発なので01時ころでしょうか)

3月2日(日)目を覚ますともうCDGの近くまで来ていた。朝6時、CDGに到着。13時半の関空行きの出発まで空港内で過ごす。東條さん、宮川さん、北井はAF便で関空へ。浅野さんJA便で羽田経由伊丹へと別れた。

3月4日(月)3人は9時すぎ無事 関空到着。一人残った中野さんはCEFIGでの運用と日本ブルキナファソ友好協会の飯田さんとワガドゥグ郊外の村など訪れ3月6日に帰国された。

ワガドゥグ郊外の村でバオバブの木の实からオイルを作る)



まとめ 今年のXTでの活動は北アフリカや西アフリカでの事件などの影響を受け、当初の予定から大幅に変更された。また、大学間の協力も学生さんの参加が一人であったことと中野教授が当初から参加できなかったことなどからアマチュア無線の普及が主となった。

しかし、2/26にワガドゥグで開催されたARBF主催の「国際ワークショップ」という名称であったセミナーでアマチュア無線の楽しさ、日本の制度の講演と、島本さんが講演された地上放送のデジタル化などでBARRO通信大臣、電子通信情報管理局 (ARCEP)のBAKO局長が出席されたことはXTでの3ヶ年にわたる地道な活動の成果ではないかと考える。

今年、不幸な事件がありました。XTの人たちが自ら電波を発射できるようになればXTでのIT技術の発展が社会の発展につながると信じ、私たちはできる限りの支援と努力をしていきたいと考えています。

注 7MHzハイボールが2本あるが同時に展張はしていない

